



ODYSSEY-3

MA日本キックボクシング連盟
9月15日 北沢タウンホール

▼ライト級
MAライト級1位
○木村 允
(173cm/60.4kg/22歳)
10勝(6KO) 1敗1分

●笹羅崇裕
(174cm/61.0kg/28歳)
10勝(1KO) 5敗2分

判定 0-3

**笹羅の鼻をへし折った
木村が満を持して、
井上哲の“王座獲り”宣言**



★その他5回戦の結果
▼73kg契約
ホセイン・キャリミラド(SB・湘南)【判定2-0】ランボー(東金)
▼ミドル級
マグナム酒井(士道館)【KO2回・1分30秒】井手本高司(八街)



○「サウスポーは苦手なんです。ローもカット出来なかったし。相手のパンチは重いけど結構見えて、思ったほどじゃなかったです。後の課題はスタミナですね。鼻が折れてた？ 悪いことしたけど... まあ、いっか」(木村)



○井上哲(山木)【判定・2-0】叔野謙嗣(ビクトリー) メインでは木村允の標的、MAライト級王者井上が若手の叔野相手に横綱相撲で判定勝利。決め手こそ欠いたがリベンジと首相撲を中心に、相手の良さを消す“火消し”のテヅっぷりを全開。危なげない内容だった。木村戦については「まだ難な面はあるけど彼はいい選手。いつだって受けてたますよ」。

★DIGEST



○加藤健朗(フリー)【TKO2回・1分56秒】船木謙虎(山台青葉) 神出鬼没の活躍を続ける流石のキックボクサー、元MAライト級王者・加藤が久しぶりに東京に登場。これまで久々のリングとなる、40歳(!)の船木と対戦。ミドルで船木の腕を破壊、さらに首相撲からのヒジで流血TKO勝利した加藤だが「緊張して動けなかった」と不満。

木村允が元NJKFライト級2位の笹羅崇裕に完勝し、同級王者・井上哲への挑戦に向けてアピールした。サウスポー同士の対戦となったこの試合、序盤は両者ローで探りあい。しかし2回、木村のヒジで笹羅が鼻血でドクターチェック。ドクターの話では鼻骨骨折の重傷だったそうなのだが、試合は続行。笹羅は大きなダメージを負う事になった。

木村は持ち前のシャープな動きから強烈な左ロー、ヒジなどで笹羅の体力を削り、試合を優位に進める。笹羅も得意の左フックやローで果敢に反撃するのだが大量の鼻血は止まらず、スタミナを消耗し思うように動けない。結局、木村が終始優勢のまま終了、判定は大差がついた。

試合後タイトルマッチについて話を振ると、いつもは「まだ早いで」と謙遜するところを、今回は「ほんとはKOで勝ってアピールしたかったです」(木村)と肯定。1試合挟んで挑戦という責を負っている様子で、「周りに「挑戦を」するべきだって言わせる雰囲気にもっていきけるようレベルを上げていきたい」と前向きなコメント。いよいよ機は熟してきた。(小宮山)



Fight II 平和島

新日本キックボクシング協会
9月9日 東京・平和島R'nホール

▼日・泰ライト級同級戦
元ラジャダムナン・フェザー級王者
○ムアンファアレック・ギヤットウィチアン
(166cm/61.6kg)
81勝(6KO) 17敗5分

●中川タカシ
(177cm/61.8kg/27歳)
13勝(5KO) 7敗5分

判定

**ムアンファアレックの
テクニクは脱帽モノ
中川を封じ、判定で快勝**



ムアンファアレックは、左上下に打ち分け、右アンバーから左フックへつなぐコンビネーションも正確で、あきらめない

■採点表

	ジャッジ	ジャッジ	ジャッジ
	中川	ムアン	中川
1R	10	10	10
2R	9	10	9
3R	8	10	8
4R	9	10	9
5R	9	10	9
TOTAL	45	50	45



○「中川はパンチが鋭い。試合は中川がリードする場面もあったが、展開を逆襲。まだ中川は危なかった」

○余裕のあるムアンファアレックは、そんな危しさを察して繰り出す。思いどようにはあったが、大味な試合展開になったのは否めない。

初回、様子を見るようにローを出していた元ラジャ・フェザー級王者・ムアンファアレック。強いインローを蹴るとこれが金的に当たってしまふ。再度インローが金的に当たると元王者は作戦を変更してボクシングを中心にして試合を組み立てる。強打する左のボディフックから左フックのコンビネーション、上から叩きつけるような右ストレート、接近しては中川へショートアッパー。

そして3回、強打ではなくピンポイントを狙った上から叩きつけるような右ストレートの確に顎を捉える。中川は一瞬動きが止まり、そのままマットへと崩れ落ちた。そのラウンドを切り抜け、得意の首相撲で攻略の糸口を見つけようとしたが元王者は全く寄せ付けなかった。続く4回も元王者は蹴りを織り交ぜながらもパンチで試合を支配。

最終回、中川はバックブローで起死回生を狙うが元王者はしっかりとこれを見切り危なげなく完勝した。元王者は身体の大きさがやりづらかったと語っていたが、中川は重いパンチにKOされなかったという努力賞に満足せず、このやりづらさを活かし、金星という明確な勳章を賞欲にも取りにいってほしい。(早川)



○パンタム級/馬謙介(藤本)【ドロー・0-1】風神和昌(野本館)2回、若手の注目株・風神の右ストレートで肩がダウンを奪われるが、後半はボディへの攻撃で動きを止めてはパンチを叩き込んでポイントを取り返した。